

「学志舎での思い出」

私が学志舎に通い始めたのは高1の夏からでした。
高校入学から1ヶ月近くオンライン授業の期間があり、
とても怠けていた私は勉強する習慣が全くなく、
その期間に努力していた子たちとは大きく差が開いていました。
6月になり部活や学校生活が本格的に始まり、
「さすがにこのままじゃだめだな」と思い、
学志舎に通い始めました。

部活は演劇部でした。
平日や長期休み、ほぼ毎日練習があったため大変でしたが、
とても楽しかったので、勉強も部活もどちらも頑張りたいと思いました。
そこで平日は毎日部活が終わったあとそのまま塾へ行き、
自分の机で勉強する事にしました。
部活の後「疲れて行きたくないな」と思うこともありましたが、
他にも自習に来ている先輩や同級生がいること、
自分専用の机があるという事がモチベーションになり、
3年間続けることができました。
また、友達と休みの日に一緒に塾で勉強をしたり、
難しい問題を教えあったりすることで、
楽しみながら塾に通うことができました。
受験期には小論文論文や志望理由書の添削、
自分に合った大学探しに、塾長、事務長、
塚田コーチなどの沢山の方に支えて頂き、
自分の夢に自信を持って受験することができ、
とても感謝しています。



「卒塾生 学志舎で語る」vol.13

「卒塾生 学志舎で語る」
バックナンバーはこちら

2022年12月 卒塾生 坂本 詩織 名古屋市立大学 人文社会学部 合格

小さい頃から発展途上国で支援をしている日本人の絵本や
里親に密着しているテレビ番組を好んで観ていた私は、
「誰かのために行動できる人」に強い憧れを抱いていました。
そのため、幼児教育だけでなく、子どもを取り巻く環境について学ぶことで、
何か子どもたちの役に立つ人間になりたいと思っていました。
子どもの貧困など、今の社会問題について考えながら幼児教育を学べる大学という
条件にぴったりだったのが名古屋市立大学の心理教育学科でした。
はじめは心理と社会問題は何の関係もなさそうだなと思っていましたが、大学で学ぶことを調べているうちに、
子どもが育つ環境は子どもの心理状態と密接に関係しているという事を知りました。
無事に志望校に合格できたことで、大学での様々な学びを通して
子どもの発達を守る人になれることを、とても楽しみにしています。

力を何%出せたのか？ 自分で採点する。

点数よりも、大切なものだと教えています。

学志舎では教師のことを「先生」ではなく「コーチ」と呼びます。
「コーチ (coach)」とは「馬車」の意。
ひいては「大切な人を、その目的地まで送り届ける」という意となります。

私は子どもの育つ環境と子どもの成長について
大学で学びたいと思っています。
元々子どもと関わる事がとても好きで、
小学生の頃から母の幼稚園で
ボランティアをさせてもらっていました。
「将来は保育士になりたいな」と
なんとなく考えていたのですが、
具体的に大学で何を学びたいか考えた時、
幼児教育だけじゃ何か物足りないと思っていました。

高校2年生の秋から彼女の担当になりました。
それまでは塾で会ったら少し話すだけだったので、明るい元気な高校生というイメージでした。
マンツーマンをするようになり、演劇部の部活三昧の中、
なんとか時間を生み出して勉強を進めていることを知りました。
平日も土日も部活で、「部活に青春を捧げる」という言葉は彼女のためにあるんじゃないかと思いました。
彼女のいいところは、分からないところに対して分かったふりをしないところだとずっと思っていました。
高校生になると「なんとなく分かったかな～」というところを理解したとして進めがちになってしまいます。
その点で彼女には良い意味でプライドがなく、分からないときに本当に困った顔をしてくれました。
素直に「まだ分からない」と伝えてくれることで、小さな疑問を残さずに進めることができたと思います。
これからの大学の勉強でも、疑問に思うことはそのままにせず、どんどん吸収して行ってほしいです。
また、今回推薦入試で合格できたのは、やりたいこと、そのために名市大で学びたい、が
非常に明確だったことだと思います。やりたいことを話してくれるときの彼女の表情は
とても生き生きしていて、この思いを面接官にぶつければ絶対大丈夫だと思わせてくれました。
素直で、受験や部活で自分が大変なときでもコーチに思いやりをもって接してくれる
優しい心の持ち主の詩織なら、きっと素敵な保育士になるんだろうなと思います。
大学でも詩織らしく、全力で楽しんでね！



担当コーチ 塚田真菜 岐阜大学医学部5回生

学志舎

智をつけよ そして人の為に使わせ



築100年の古民家



1F 小中学生教室



2F 高校教室

〒500-8085 岐阜市白木町92番地

【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索

高校生の皆様へ

メールばかりだと論理性ばかりか感情もやせ細る？

学志舎

岐阜市で26年の塾運営経験を活かし、
お子さまのレベルに合わせたカリキュラムを組み立て、
徹底した自律学習指導を行っています。

そう、文を書く際には人それぞれのスタイルがあるはずです。
ところが昨今文章といえばメールのみ、という高校生は、
日本語の文章を「文体」として識別出来たり、
自分独自のスタイルを持ったりすることが出来るでしょうか？
ソーシャルメディアは短文が支配する世界です。
例えば「今回の不如意、残念」という文の中には、
短文でも漢文に影響された文体がありますが、
メールの短文はそのようなものではありません。メールの短文ばかりに触れていると、
思考の仕方もそれなりのものになってしまう。
長い文脈をもって思考できなくなるのです。
つまり論理性がどんどん欠如していきます。
高校生が国語の評論や英語の長文読解が苦手なのは当然といえましょう。

長文の構造把握ができますか？ 国語評論文問題の本文抜粋

近代産業化が対処する問題は、例えば国民的な次元での貧困の救済であり、世界的な政治的抑圧の構造の解消であり、さらには教育の平均水準の向上や基礎的な衛生状態の改善などが、その典型的なものと考えられる。それらは問題として普遍的であるばかりか、世俗的な性質からして一般的に理解されやすい問題であり、これに有効に対処することは、一時代の価値観を等質化するうえできわめて効果的であったのは、明らかだろう。そして、近代産業化は事実、こうした問題の解決に目覚ましい有効性を見せたのであって、その結果、ひとつの時代を明確に区画するうえでも、強力な説得力を発揮することになった。すなわち、「近代」「前近代」という時代区分は、たちまち地球規模の普及のひろがりを示し、おそらく人類史上、最大の適用範囲を誇る時代概念になったといえる。これによって、かつて自然と呪縛の世界にのみ生きていた民族は、たぶん初めて歴史の概念に触れたのであるし、一方、産業化の点で先進的な国民は、年来の「歴史主義」を抜きがたい固定観念にまで定着させることになった。

したがって、「歴史主義」の理論的な批判者「たちは、この世界観の偏りを非難し、人生には別の見方も別の世界もあることを指摘しようとしたのだが、これが容易に影響力を持ちえなかったのは当然であった。たとい、この世界観の視野がどれほど狭かろうと、少なくともその視野のなかには、それによって捉えられ、それによって説明可能な圧倒的な現実があったからである。以下略

小説のようにストーリー性があれば大丈夫というかもしれませんが、
本をあまり好まず会話表現ばかりのメールに埋もれた生活だと、(つまりメールの文字変換候補の中だけでは)語彙がやせていきます。
例えば「鼻白む」(かつてセンター国語の小説で設問となった)はわかるでしょうか？
語彙がやせていると、日本語の小説さえも読めなくなるでしょう。
語彙がないということは「文」を読むという能力の衰えを超えて、「感情」までもやせ細っていきます。
ツイッターで使う『お気に入り』・Facebookの『いいね』・Lineの『スタンプ』となると、
すべて単純化されてしまって、感情さえも細かく分けることができなくなっているのではないのでしょうか。
Facebookに掲載された写真や文章を見て、本当は「いいね」ではなく、「素敵」・「イカす」・「シュール」・「滑稽」・「健気」・「納得」など、もっと細分化された感情が湧くはずです。
→「滑稽」にさえ、プラスとマイナスの面があります。(笑殺)と(笑止)では笑う口元が違います。
末尾にwwwでは口元がわかりません。
→古文の「うつくし」は「かわいい」と訳しますが、(小さい)or(幼い)ものに対して使うという条件がついていました。

感情が細分化して表現できる「言葉」があるということです。
この感情もその感情語を持っている人にしか感じられません。

例えば「美しい」ということばを知らない幼児は「きれい」とは思っても、決して「美しい」とは思えません。
我々の年代はどっぷりとアナログに浸って過ごしてきた世代であり、その上での現在のデジタルツールです。
それに対し、今の高校生のように、生まれた時からデジタルツールが当たり前の世代は、
かなり意識的にアナログっぽく文章を読んだり、書いたりしないと、冒頭の「文体」などというものが持てなくなり、
論理的にとらえられず、さらに感情までやせ細るという危険性が高いといえましょう。
最後に、女流作家の幸田文(センター試験出題作家)の文章においては

寒さは「ゆるむ」ですが、冷たさは「ほどける」
と表現されています。「寒さ」と「冷たさ」とは違います。
だから、それが暖化していく様を表す動詞も違うのは論理的であり、かつ感性的です。
デジタルツールを使いこなす時代だからこそ、

詳細はHPを御覧ください

春期講習会 2023

もっと本を読まないといけないということ、ですね。

自律学習の徹底

国語力最優先指導

褒める教育の徹底

「言われたことはきちんとこなすが、自分で考えて行動を起こすことが出来ない子が多い」
と言われる昨今、学志舎は「学力」＝「学ぶ力」すなわち
「自分で考えて、学習できる力」と位置づけ、徹底した自律学習指導を行うことにより、
自分で考えて行動できる子どもを数多く育てています。



勉強の習慣付けを徹底

小学部

中学・高校の6年間で花開く
「基礎学力」を徹底して作るコース



朝6時オールナイト学習会終了

中学部

高校受験のための教科力と
自律の養成を徹底して行うコース



合格おめでとう！

高校部

本格的な大学受験のための
学力形成を徹底して行うコース

褒め上手な親の子は伸びる子が多い、もしくは学力が高い生徒が多いというのは、
26年の経験の中で間違いありません。
学志舎は20年前に岐阜県では初めてコーチングを導入し、お子さまの存在を認め、
良いところを褒めることを徹底して行うことで、お子さまを大きく伸ばしています。

詳細はHPを御覧ください

〒500-8085 岐阜市白木町92番地
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎058-265-4562

【感染症対策実施中】



https://gakushisha.com/

学志舎

検索